

第33回「大津市図書館協議会」の会議結果

- 開催日時 令和6年11月20日（水）10時00分～11時40分まで
- 開催場所 大津市立図書館 読書室
- 出席者 委員8人・事務局9人・計17人
- 傍聴者 無
- 次第
 1. 開会
 2. 市民憲章斉唱
 3. 辞令・委嘱状交付
 4. 挨拶（図書館長）
 5. 委員及び事務局紹介
 6. 会長・副会長の選任
 7. 議事
 - (1) 大津市図書館協議会－これまでの活動－
 - (2) 大津市立図書館の概要について
 - (3) 令和6年度大津市図書館事業計画について
 8. 報告事項
 9. 閉会

●会議の概要（発言内容については要旨を記載）

◎会長に井上委員、副会長には嶋田委員が選任された

◎議事

〔議題1 大津市図書館協議会－これまでの活動－〕

・事務局説明

会 長 図書館も市の施設であり、大津市の行政サービスの1つである。大津市としてや
っていかねばならない行政サービスの「社会教育」という流れの中で図書館サー
ビスは行われている。それが法律等に基づいて出来ているのかチェックし検証し、
色々な事業を進めていかねばならない中で、事務局が説明したPDCAサイクル
の中で「チェック」を行っていく。この「チェック」に基づき新たな視点や今後やっ
ていかねばならないことを次の「アクション」として進めていくということにな
る。このサイクルを回しながら事業を推進していく。図書館協議会は「チェック」す
る機関として、素朴な疑問やご意見など普段の知見に基づいて忌憚なく発言してい
ただくことで、より良い図書館がつくられていく。

〔議題2 大津市立図書館の概要について〕

・事務局説明

会 長 電子図書「コンテンツ」という言葉について。電子図書は、紙の本とは違い実体のないものになるので、「情報を使用する」という観点から備品購入費ではなく使用料及び賃借料という科目で予算執行されている。そのため、蔵書統計の中にも表れてこない。ご提供いただいた資料の6ページ7ページの図書館概要の中にもコンテンツ数の表示がない。資料に当たらないという性質からと判断するが、次年度からで良いのできちんと見える形でコンテンツ数を表示してほしい。決して少ない数字ではなく、非来館型図書館サービスの先進的な取組みとして更なる利活用のために様々な場面でアピールしてほしい。

〔議題3 令和6年度大津市図書館事業計画について〕

・事務局説明

委 員 今、流行りの本を読みたいと思って図書館に行っても、貸出中で借りられない。図書館の利用の仕方を考えるに、先日大学生の息子が地元の百間堤に引率して行くことになり、図書館に調べに行ったら大津の水害についてかなり多くの資料があった。やはり、地元の歴史などの資料を探すにはネットよりも図書館の方が良い。また、手作りオーブンを作りたいと、アウトドアの本を探していたが、オーブンの本は借りられなかったが、別の本に触れることができ、新たな本との出会いから、新しい世界が広がった。日々図書館に行くと、多くの情報が得られるが、普通に生活しているだけで情報が入ってこない。調べようとしなければ、自分でアクションを起こさなければ情報が入ってこないところが大津の図書館の課題だと思う。この2年間、図書館を見てきて、限られた予算やスペースの範囲内で実施できることは全て取組みをされていると感じている。本当は、目の前に駐車場や広い公園があると親子で行けて良いのだが、本館は駐車場から歩くのも小さい子ども連れだと大変だと思う。気軽な利用につながるよう、広く地域に情報を発信することは大切だと思う。

会 長 図書館の職員に「こんな本を探しているんですが」とは聞かれなかったか。利用者が求めておられる本を探すのも司書の大切な仕事である。検索機で本を探すだけだと見つからないものも、図書館職員は別の手段で本を探す術を持っている。

事務局 情報発信については日々模索している。令和5年度からは、新たにXで日々情報発信している。新着本の案内やイベント情報などを発信し、フォロワーも少しずつ増えている。今年度、中学生対象の映画会を実施したところ、広報おおつには小さなスペースで案内されただけだったが、来られた方はL i n eやXで情報を得てきたとのことであった。ネットの情報に慣れている人も多いと思うので、こういった人をターゲットにした情報発信もしていきたい。また、地道な発信にも努めている。移動図書館のチラシを地域の回覧板で回してもらったところ、そのチラシをみて移動図書館

に来たという利用者もおられた。多くの市民に図書館のサービスを知っていただけるよう、様々な媒体を活用しながら情報発信に取り組んでいきたい。

会 長 図書館では、ベストセラー本が発売されたらすぐに購入していると思うが、インターネットで予約ができるようになってから、予約件数が飛躍的に伸びているように見受けられる。複本購入もされておられるが、人口比や予約件数からいくと図書館で決められた限度数まで購入されていると思う。そのような中で現在、本が売れなくなっているのは、図書館が本を買って利用者に提供するからだ、出版社や著作者は主張しているようだ。ベストセラー本をどれくらい買うのが適切なのか、議論になっている。図書館では、資料費が限られている中で、予約状況等を加味しバランスの取れた資料購入、提供に努めておられることをご理解いただきたいところである。

委 員 たいしたことではないと思っていることを司書に調べてもらうのは気が引ける、申し訳ないという気持ちになる。ネットで調べればいいと思っているが、これが図書館の越えなければならないところかと思う。

委 員 104歳のおばあちゃんが和邇図書館から本を限度いっぱいまで借りてきて読んでいる。100歳を超えても活字を読み理解できるのは読書の効果かなと思う。認知症にならないようにいろいろやっているが、その中でも活字に目覚める、本を読む姿勢など、読書の効果はあると思う。30年前には立派な建物の和邇図書館は「そんな立派なのを建てても誰も行かない」と言われていたが、文化を大切にする施設を地域に持ってきたことは、今では良い判断であったと思う。これからも高齢になっても意欲をもって読書に取り組んで行きたい。

会 長 高齢者向けには大活字本があり、電子図書の中にも活字を大きくすることができるものもある。読書バリアフリーを進めていく中で障害を持つ方の読書をどう進めていくのか、いろんな取り組みがなされている。国の方も4年前に「読書バリアフリー計画」を策定され、県の方も3年前に策定されている。大津市の方でも、できれば障害をお持ちの方、障害者手帳をお持ちの方だけでなく、図書館の利用が難しい方のことも含め読書活動をどのように推進していきたいのかを実態調査したうえで、計画についても積極的に進めていただければと思う。

委 員 この会議に来て知ること多い。幼児の場合は家庭の中でも差がある。毎週借りに行くという人、あるいはネットで見ている人、どんな形であれ、親子で関わりながら楽しく絵本を読むことを育てていきたい。大石幼稚園では団体貸出を利用しているが園長会でも紹介し広げていきたい。

委 員 これまでも団体貸出を利用している学校への赴任が多かった。学校としては助かっている。学校の中に児童クラブがあるところがあるが、児童クラブへの団体貸出があることをご存じじゃない団体があるのではと思う。宣伝しておく。

委 員 真野中学校では今年学校司書さんが配置されて、中学校では読書する時間が少ない中で、読書巡回を実施して本を読む習慣を身に付けようとする取り組みを行って

いる。様々な取り組みを図書館にはしてもらっており、定期的に図書館だよりを送付いただいていて、教員は理解しているが、子どもたちに図書館の取り組みが伝わっていないのではないか。この取り組みを中学生に広める手段はないか、学校の配信システムでも図書館の取り組みを配信することは協力できるし、ともに考えていけると思う。実利用者数を伸ばしていく中で、子どもの利用を増やすことも考えていってほしい。

会 長 子ども読書推進の一つとして放課後児童クラブへの取り組みをやっていくのがいいのではないかと。子どもの読書推進にも近づくのではないかと。実利用者数を人口の10%にすることを目標にし、さらに子どもの利用を増やしていくことを考えてはどうか。

事務局 児童クラブへの団体貸出は既に実施しているが、利用されていない団体も多い。さらに周知していきたいと思っているが、先生方からもお声掛けを頂きたい。

会 長 学童の担当である児童福祉の部署にも声掛けをして周知をし、利用者を増やしていってほしい。

委 員 視覚障害者向けの大津市の広報誌にかかわってきた。視覚障害者の方は自分の読みたいものの朗読を個人的に県立の視覚障害者センターや京都ライトハウスに依頼されるが、京都ライトハウスだと予約から3ヶ月くらいかかるようである。視覚障害者の方がどれくらい困っておられるか、各団体に聞き取りしながら図書館としてどうすればいいのか把握されればどうか。

会 長 対面朗読はマッチングが難しい。ある程度の水準で対応していくことの調整は必要だと感じている。

委 員 情報発信はデジタルを推進されているが、広く浅くならばアナログのほうが力を持っているのではないかと。例えば、放送局へ働きかけることは結構意味があるのではないかと。テレビなら年齢を問わず、図書館に興味のない人の目に触れることが出来るのではと思う。また、町内会の掲示板もいいと思う。駅のポスターなどは多くの人の目に触れることができる。昔からの手法での情報発信も必要と思う。また、産休、育休の人は社会から離れて寂しいと思っておられると聞く。図書館へ行くこと自体が楽しみと聞いたこともある。乳母車を押して若い妊婦さんが来られているが、この人たちがくつろげるようにはならないものだろうか。妊婦さんがちょっと一息つけるようなところがあればいいと思う。幼児向けの企画は沢山あるが、それだけでなく妊婦さん向けの企画もあればいい。そういう人が図書館に来てくれれば新たな動きが出来るのではと思う。

事務局 生まれて数カ月から参加できるおはなし会から幼児向けのおはなし会、わらべうたの会など実施している。それに乳母車を押した妊婦さんも赤ちゃん連れで参加されている。

委 員 大津市ではブックスタートは怎么样了のか。

事務局 現在実施していない。担当課は、大津市子ども読書活動推進計画の推進課である生涯学習課となっている。

会 長 乳幼児健診の受診率が高そうだから、そこで図書館の利用案内等チラシを配布すれば情報が必要な人へ伝わっていくのでよいのではと思うが。

事務局 本市においては、すでに実施している。

委 員 行事に参加するだけでなく、赤ちゃんを連れて他の人に煩わされずにちょっと一息つける場所があればいいなと思う。

委 員 学校からの情報発信や周知をぜひお願いしたい。和邇館の杉山亮さんの講演会は高齢者が多かったが、中学生、小学生に聞いてほしい内容であった。学校からの案内があればもっと中学生、小学生が来たのと思う。私の所属団体では団体貸出も利用しているが、学校の先生方からも広めていただくことでより効果が上がると思う。次のアクションにつながる周知の方法が必要だと思う。

会 長 図書館協議会の会議自体は年2回から3回だが、委員の任期は2年である。会議以外でも意見等があれば事務局へご連絡いただきたい。